

つむぎ通信 vol.5

在宅連携センター「つむぎ」
TEL/053-451-2807 FAX/053-451-2808
✉soudan@hamamatsucity-medical-co.jp

令和2年度のはじめに～ご挨拶～

様々なことが自粛の中、今年度が始まりました。大変な状況の中、ご心労も多いことと思います。一日も早い終息を心より祈るばかりです。

さて、つむぎは開設から5年目を迎えました。この5年で高齢化はますます進み、高齢者が住み慣れた地域で最期まで安心して暮らすためには、今まで以上に様々な問題への対応が必要となっています。これらの問題は、地域社会全体で、医療・介護に関わる多職種の皆様の連携・協力により地域にあった生活支援システムを作り上げてゆくことが重要です。

在宅連携センターつむぎ（浜松市在宅医療・介護連携相談センター）では、地域の在宅医療・介護のための社会資源を整理し、在宅医療や介護に関する様々な相談ごとに対応できるように努めています。

また、相談事例を丁寧に分析し、皆様からのご相談に活かせるよう蓄積しています。

皆様のお力になれるようスタッフ一同頑張ります。お気軽にご相談ください。

浜松市在宅医療・介護連携相談センター長

岩瀬 敏樹



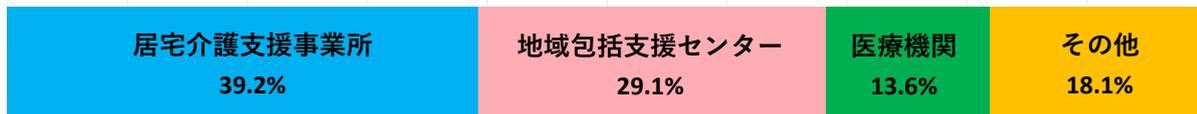
令和元年度 相談状況

令和元年度の相談件数は、前年と比較して延件数・実件数ともに増加しました。<表参照>

また、相談者は、居宅介護支援事業所と地域包括支援センターで約7割を占めています。<図参照>

表：相談対応件数（前年との比較）

| 年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|-----|--------|-------|
| 実件数 | 226 | 293 |
| 延件数 | 727 | 1,285 |



図：つむぎへの相談者の割合

全22地域包括支援センターの訪問完了！



昨年度は1年間かけて、浜松市内全22地域包括支援センターを訪問しました。中区には6つの地域包括支援センターがあり、地域特性に合わせて様々な活動を行っています。

元浜は、開業医や薬局、シニアクラブ、デイサービス、郵便局など地域の関係機関廻りに力を入れたり、協働センターまつりへ参加したり、各機関との関係強化に努めています。**鴨江**では、民生委員やケアマネジャーと協働して「社会資源マップ」を作り、日常の支援に活かしています。**佐鳴台**は、気軽に集まることができるサロンが隣接し、相談に訪れやすい場所にあります。また、近隣の団地や城北地区に出張し、相談窓口を広げる活動にも取り組んでいます。**和合**では、権利擁護の啓発活動に力を入れています。サロンやシニアクラブ、事業所を訪問し、利用者やスタッフ向けのミニ研修なども行っています。**板屋**では、徘徊高齢者早期発見事業の普及活動に注力しています。併せて、認知症カフェの開設・運営の支援も継続的に行っています。**高丘**では、訪問しやすい・相談しやすい雰囲気づくりを大切に、権利擁護に関する広報・啓発活動、ロコトレサロンの立ち上げ支援などにも取り組んでいます。

相談事例Q&A ～相談内容を紹介します～



Q1：誤嚥性肺炎を繰り返すALS男性、母親と二人暮らし。吸引を訪問看護ステーションとヘルパー併用で考えている。吸引可能なヘルパーステーションを教えてください。（ケアマネジャー）

➔障害支援区分が必要だが、対応可能な訪問介護事業所があり情報提供した。

Q2：脳塞栓症後遺症（上肢麻痺、空間無視などの高次脳機能障害）を抱える若年女性。車を運転し通勤したい。運転シミュレーターを使ったりリハビリテーションを希望している。（ケアマネジャー）

➔つむぎのネットワークから浜松市内のシミュレーターを持つ病院を紹介した。

Q3：認知症（脳血管性、うつ病）女性。夜間徘徊、昼夜逆転、被害妄想、他害行為等認知症の周辺症状が酷く、家族が介護限界であり、入院入居先を急いで探している。（ケアマネジャー）

➔周辺症状の緩和が第一と考えられることから、精神科単科病院に受診を勧め、併せて認知症病棟のある病院の空床状況等を確認して、情報提供した。



Q4：脳出血（視野欠損 感覚性失語）、認知症、人工透析、男性。視野の状況や他の疾患がないか調べたい。発語のない人が通院できる眼科を探している。（ケアマネジャー）

➔重度心身障害児者が受診可能な診療所一覧から、対象者の最寄りの眼科を紹介をした。



Q5：地域包括支援センター主催で、ケアマネジャーを対象とした地域包括ケア病棟及び介護医療院の研修を企画したい。（地域包括支援センター）

➔該当地域の地域包括ケア病棟を有する病院・介護医療院に架電、協力を依頼し、相談者に紹介した。

『人生会議手帳』ができました!!

あなたが“もしものとき”どのような医療・ケアを望みますか？

「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）」とは、「人生の最終段階のこと、その時に受ける医療やケアのことを、ご家族や親しい人と相談すること」・・・人生の最終段階のことを考えることは、最期まで自分らしく生きることにつながります。

浜松市は、令和元年12月に『人生会議手帳』を作成しました。この手帳をきっかけにして、各所で「人生会議」が開かれることを期待しています。この手帳は、地域包括支援センターや市・区役所で配付しています。研修会での配布も予定しています。また、浜松市ホームページからダウンロードも可能です。つむぎでも相談対応でご紹介することがあります。

皆様にも、まずは手に取って見ていただき、ご自身のことを考えるきっかけにさせていただきたいと思えます。



お気軽にご相談ください

高齢者を支える医療・介護・福祉の関係者など、どなたでもご相談いただけます。また、相談者とともに対象者の自宅などに同行訪問することも可能です。

ご相談お待ちしております。

電話番号 053-451-2807

月～金曜 8：30～17：00（年末年始・祝日休み）

在宅連携センターつむぎ浜松

検索



編集後記

研修会・会議の中止が相次ぎ、なかなか皆様にお会いできませんが、つむぎでは昨年度と同じ5名のスタッフで活動しています。今年度もよろしくお願いたします。

センター長（医師）岩瀬
保健師 水崎
社会福祉士 藤原
事務員 高井
事務員 清水

